

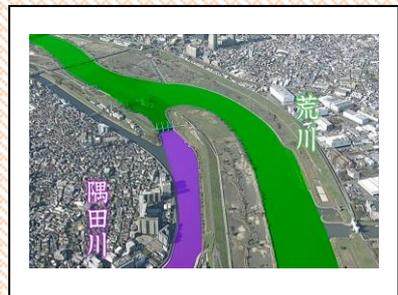
児童朝会 校長の話 7月20・21日

7月になってからずっと、雨の多い日が続いています。7月3日から13日の10日間に、今まで経験したことない記録的な大雨が九州や西日本を中心に降り続けました。あちこちで川が氾濫して洪水が起きました。これは熊本県の様子です。(写真) 町が完全に水没しています。山に近いところでは土砂崩れが起きて家が潰れています。(写真) 家が壊れて人が住めなくなっています。(写真) 全国で被害のあった家は全部で1万5千棟以上です。ボランティアの人たちが片付けを手伝っていますが、コロナウイルスの関係でボランティアの人が集まれず、なかなか進んでいないようです。人間の力の及ばない自然の脅威ですね。



昔、浅草の町は何度も洪水になりました。明治時代に、隅田川が氾濫している様子です。(写真) 浅草の中心街の様子ですが人の腰まで水に浸かっています。今、洪水が起きなくなったのはなぜかというと、大正13年に岩淵水門が作られました。荒川がこ

こから隅田川と荒川に分かれています。この分かれ目に岩淵水門があります。(地図) 現在の水門は昭和57年に新しく作り直されました。大雨が降って川の水があふれそうになると、この水門を閉じて隅田川にたくさんの水が来ないように荒川に流します。この水門のおかげで隅田川は氾濫しないで浅草の町は守られているのです。



けれども昨年の10月の大型台風19号の時、記録的な大雨になりました。水門を閉じましたが、隅田川も荒川もかなり水位が上がってギリギリのところまで来ていたようです。

これからは大雨や台風の季節ですね。自然の力は人間の想像を遙かに超えます。そのことを知って、油断せずに情報を集めたり準備したりすることが大切です。大切な皆さんの命を守る行動ができるようにしていきましょう。